

「鳥取県西部地震」2周年県民大会 ～住み続けたいまちづくり～

報 告 書

元気いっぱい!
鳥取県

「安全・安心なまちづくり～

～元気な鳥取県づくり」

米子コンベンションセンター(ビッグシップ)

平成14年9月28日(土)

はじめに

平成12年10月6日に発生した「鳥取県西部地震」から早いもので2年が経ちました。

死者こそなかったものの、西部地区を中心に大きな被害をもたらし、このあと一体どうなるのだろうかとその当時、途方に暮れたことを昨日のように思い出します。

しかしながら、被災者の方々をはじめ市町村、県の絶え間ない復興への取組により、今日まで順調に復興を遂げることができました。

今後二度とこのような地震は起きてほしくありませんが、自然災害というのは、またいつどこで発生するかわかりません。

そこで、そのときの準備の一助として、昨年9月28日、鳥取県西部地震の体験や教訓を活かした災害に強い元気なまちづくりを皆様と一緒に考える「鳥取県西部地震2周年県民大会」を開催いたしました。

阪神淡路大震災や有珠山噴火災害からの復興や新たなまちづくりに携われた方々の貴重な体験などを紹介するとともに、地元の元気な小学生による太鼓の演奏で力強く着実な復興の歩みを確認することができました。

ここに、大会に御参加、御協力いただきました皆様に改めて心からお礼申し上げます。

今後とも、鳥取県西部地震の得がたい教訓を風化させることなく、安全かつ安心して暮らせる元気な鳥取県づくりをさらに推進してまいりたいと考えておりますので、御協力、御支援をお願いするものです。

最後になりましたが、この報告書により鳥取県西部地震が県民の皆様の心に記憶され、引継がれることになれば幸いです。

平成15年3月

鳥取県知事 片山善博

鳥取県西部地震2周年県民大会

開会挨拶

鳥取県知事 片山善博



基調講演

神戸大学都市安全研究センター教授 室崎益輝 氏



パネルディスカッション



コーディネーター 片山善博
鳥取県知事



パネリスト 長崎良夫
北海道虻田町長



パネリスト 杉山カ子
神戸市高丸防災福祉コミュニティ会長



パネリスト 矢田治美
日南町長



パネリスト 山下弘彦
日野ボランティアネットワーク



パネリスト (コメンテーター) 室崎益輝
神戸大学都市安全研究センター教授

(敬称略)

「おにっ子太鼓」演奏

鳥取県溝口町立溝口小学校児童



「鳥取県西部地震」被災パネル展

米子コンベンションセンター内「情報プラザ」：平成 14 年 9 月 28 日（土）・29 日（日）



❖❖❖❖❖❖❖ 目 次 ❖❖❖❖❖❖❖

- プログラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- 開 会 挨 拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- 基 調 講 演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- 「おにっ子太鼓」演奏・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
- パネルディスカッション・・・・・・・・・・・・・・ 32
- 「鳥取県西部地震」被災状況等パネル・・・・・・・・ 80
- 報道記事紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 123

プ ロ グ ラ ム

- 開 会…………… 13:00
被災状況ビデオ上映

- 挨拶…………… 13:05
鳥取県知事 片山善博

- 基調講演…………… 13:10
 - ・テーマ 「被災体験を活かしたまちづくり」
 - ・講 師 神戸大学都市安全研究センター
教 授 室崎益輝

- 「おにっ子太鼓」演奏…………… 14:20
鳥取県溝口町立溝口小学校児童
山中志織 砂原伶香 篠田龍太郎 深田 遥 入澤有加 矢田貝南子 高橋紗織
神村 大 権代恵梨香 川上博子 神村 海 入澤聴斗 篠田詩織

- パネルディスカッション…………… 14:50
 - ・テーマ：「住み続けたいまちづくり」～災害を経験したまちからのメッセージ～
 - ・コーディネーター
片山善博【鳥取県知事】
 - ・パネリスト
長崎良夫【北海道虻田町長】
杉山力子【神戸市高丸防災福祉コミュニティ会長】
矢田治美【日南町長】
山下弘彦【日野ボランティアネットワーク】
(コメンテーター)
室崎益輝【神戸大学都市安全研究センター教授】

(敬称略)

開会あいさつ



鳥取県知事 片山善博

皆さん、こんにちは。本日は、鳥取県西部地震が発生しましてちょうど2年経過しまして、この地震のことをいつまでも忘れないで、これからの教訓にしたいと思ひまして、この会を催しましたところ、お休みの日にもかかわらず、御参席をいただきまして、大変ありがとうございます。

今、ビデオで見ていただいたと思いますが、ちょうどこの会場の様子、2年前の10月6日の午後1時半の、地震が発生した時の様子を見ていただきましたが、あのおりであったわけでありす。私は、その日その時刻は鳥取県庁の知事室にいましたけれども、ここから100キロほど離れた鳥取市の鳥取県庁においてさえ、大変大きな揺れを感じました。県庁舎がもう本当につぶれてしまうのではないかと思うほどの揺れでありました。震源地に近い、この米子のコンベンションセンターでの揺れはさぞかしと思ひます。

私は当日、地震が発生しましたときに、とっさに思ったことは、一つは、どういうわけかこれは震源地は西部だと、米子の近くだということを思ひました。これはさしたる根拠があるわけではないんですが、実は、その10月6日を去ること約一月半前

であります、米子で地震の訓練をしていたんであります。防災訓練。これは、米子で地震があるということを確認する証拠を持って訓練したわけではないんですが、県としては初めて、この鳥取県の西部地域で、県と、それから米子市、消防、警察、自衛隊、関係の諸機関集まっていたきまして、防災訓練をしたわけでありす。そのときの想定は、マグニチュード7.2、最大震度6強という想定のもとで訓練をしたわけでありす。震源地はここからちょっと西に行きます島根県の東部ということに、勝手によその県に震源地を想定しまして、それで訓練をしたわけでありす。実際に起きたのは、マグニチュード7.3、最大震度6強、そして震源地は島根県ではなくて鳥取県の西部、この米子の少し南の方になりますけども、という地震でありました。一月半前に訓練をした際の想定にほぼ等しい地震が起きたわけでありす。そんな訓練をやったもんですから、そのとき、多分これは鳥取県の西部だろうと思ひたわけでありす。

これは、訓練を単にただけではなくて、鳥取県ではひょっとしたら大きな地震があるかもしれないということを念頭に置きまして、それまでの防災体制を見直して、組織も強化・拡充し、自衛隊とか消防、警察、その他の機関との連携も深めるようにし、といいますのは、地震が発生してから名刺を交換するようでは、これは大した仕事もできませんので、あらかじめみんなが連携をとって、電話その他ですぐに連絡がとり合えるようにしましよというような準備もしてました。マニュアルの点検もやって、不備だらけでありましたんで、それも直し、備蓄にも配慮をし、そんなことをずっとやってきておりまして、そのあげく地震が来たわけでありす。

したがって、私は、先ほど申しましたよ

うに、鳥取県のこれは西部だろうということを感じましたが、それ以外に、ああとうとう来てしまったかというのが、そのときの実感でありました。かねて訓練しておりましたとおり、直ちに災害対策本部を立ち上げて、それから復興に向けての作業をすぐに始めたわけでありますけれども、直後のこの鳥取県西部地方の様子というのは、とても本当に尋常ではない状態でありました。私も現地に毎日来たんでありますけれども、これで本当に復興するのだろうか、これから一体どうなるのだろうかと思ったのを、つい昨日のように思い出します。

その地震の復興対策では、私も多くのことを学ばせていただきました。一番大切なのはやはり現場、当事者。この現場をいかに正常に戻すか、当事者の皆さんの不安をいかに解消して、そして元気と希望を持っていただいて、復興に向けてエネルギーを出していただくか、力を果たしていただくか、このことが震災を経験したその後の復興対策の中で最も重要であるということ、私はそのときにみずから体験をしたわけであります。

今日は、その2年前の地震のときのこと、それから、その後の復興のときのこと、皆さんと一緒に思い出しながら、今後二度とこういう地震は起きてほしくありませんけれども、自然災害というのはいつ何どき起きるかわかりません。そのときのために準備をしておく、その一助にしたいと思っております。

今日は、神戸大学の室崎先生にまず基調講演をしていただくことになっております。阪神淡路大震災を体験されて、震災復興について本当にお詳しい先生であります。先生の話と皆さんと一緒に聞いて、その後で、私も加わりますけれども、シンポジウムを開きたいと思っております。そのシンポジウムにも、全国各地から、県内はもとより

でありますけれども、地震でありますとか、それから火山災害でありますとか、そうした災害の復旧、それからボランティア、いろんな活動に当たられた方々に加わっていただきまして、シンポジウムを開きたいと思っております。

今日、せっかくの機会でありますから、ぜひ最後までこの会に御参加をいただきまして、これからの地域の安全のために一緒に考える時間にしていただきたいと思います。

重ねて、本日御参席をいただきましたことを心からお礼を申し上げまして、開会のあいさつにいたします。本日は本当にありがとうございました。(拍手)